

開催日：令和5年3月12日（日）
場所：三重県立美術館 美術体験室

令和4年度第2回三重県立美術館協議会 開催結果

令和4年度事業進捗状況、令和5年度事業計画について

・出張授業について、学校で木下富雄作品を所蔵しているのので、来年度の展覧会と絡めてこれを活用して実施することを検討いただきたい。

・岡田米山人と半江展は、目標入館者数には届かなかったが非常にレベルの高いやる意義がある展覧会であったと思う。講演会も文人画になじみが薄い者にも分かりやすくかみ砕いた内容であり、今回の展覧会を通しての研究が、大きく遺産として残るのではないかと思う。

・赤ちゃんのための鑑賞会は非常に大事な取り組みであり、年1回ではなく日常的にこういう取り組みを行えば、なかなか美術館に行きづらい若い世代に来館してもらうきっかけになるのではないか。

・大学で学芸員資格を取ろうとする学生で、美術館・博物館に行ったことがないというケースが珍しくない。小学生については団体受入の数字に表れているように機会があるようだが、移動美術館のような取り組みを通じて、高校生年代に対してアプローチを続けていただきたい。

・博物館実習については内容のクオリティを保つため、三重県在住・在校等の条件で人数を制限せざるを得ない状況だが、県内の美術館・博物館で協力して取り組んでいただきたい。

・受変電設備の改修工事にあたって、廃棄設備にPCB含有があった場合は必要な予算取りをし、処理期限までに適正に処分できるよう留意願いたい。

・コロナ禍も収束傾向にある中、海外からの誘客が戻り、三重の文化や美術を海外の方に知っていただける機会がどんどん増えてくると思われる。県には、観光や食だけでなく、もっと三重の文化や芸術を海外へ発信、紹介していくよう努めていただきたい。

・三重県立美術館におけるアクセシビリティの取り組みは、全国的にもトップクラスであると思うので、予算的な問題はあるがぜひ続けて欲しい。

・指定管理制度導入により維持管理面ではメリットがあったとのことだが、予算面でも3館で盛り上げていけるような取り組みを考え、予算の組み立てをしていく中でアクセシビリティの取り組みも生かせるような方策を考えてはどうかと思う。

・日根野作三は、一般にはあまり知られていない作家であるが、陶芸界では非常に重要な役割を果たした人物で、この企画展には期待している。

・絵本の原画展に関連し、福音館を立ち上げた方が絵本の友を横長の構成にしたのは、日本の伝統的な絵巻物から来ていると聞いた。この企画展は子どもさんや若い方がたくさん来館されると思うので、単に子ども向きだけでなく深みのある学ぶべき世界があることを、Twitter等で発信していただければと思う。

・若い方には県立美術館は敷居が高い印象があると思うので、駐車場からのアプローチで土日だけでもキッチンカーで食事を提供するような試みを行ってみたいかどうか。

・四日市市立博物館における四日市公害の語り部の伊藤さん、岐阜県美術館における日比野館長のように、その施設に行けばその人の話が聞ける、会えるというようなキーマンを育ててはどうか。三重県立美術館には人を呼び込める施設になって欲しい思いがあるが、財政的に厳しい状況下であればマンパワーを強化していくのが一つの方策であると思う。